

・支部事業について

以下の二点について、質問しますので、回答願います。

ハブコメのリード文の中に、本部はスペシクな事業、支部はベーシク等な事業とあるが、抽象的で分かりにくいので、会員に対し、具体的にわかりやすく説明いただきたい。また、役割分担は、道士会との話し合いのもと、受験対策のようなことがないよう進めていただきたいが、そのような認識はおもちか。

二点目、支部長、ブロック長等の選出は具体的にどうするのか。役員公募の際、お示しいただきたい。また、ブロック役員の定員は5名とあるが、満たない場合は、他のブロックから選出もありうるとある。ブロック運営等に支障をきたさないため、例えば最低3名は同一のブロックから選出する等の配慮は必要ではないか。

また、同じ人が何期も役員を継続することがないように役員の任期について、上限を設けないのか。道士会にならい、今までの任期も踏まえ、4期を上限として定めるべきである。

御意見ありがとうございます。

本部事業については地域に関係なく、広く、北海道の社会福祉の向上について考え、ターゲットも鮮明に高度な事業を開催する必要がある、役割であると考えます。本部で考えた（委託された）北海道の課題への対策について各支部単位（地域単位）で行うのが支部であると考えます。

しかし、現状で道央地区支部に小回りの利いた対応は困難な状況もあり、地域課題へ取り組むべき支部の素地もまだできておりません。

そこでまずは学習会や繋がり強化、ブロック各地域の地域性を考えた事業を支部では展開していきたいと考えています。これまでも本部で開催しない共通研修の項目に当てはめた研修を展開していましたが、この後はよりブロック地域を主眼にした事業展開と考えております。

道央地区支部よりさらに活動域を小さくしたブロック体制、関係強化をまずは目的とした組織基盤づくりの基本的な内容の事業に取り組み、今後、関係が構築され、会員の皆様から事業について御意見を身近に聞ける体制を作り上げ、意見を基にした支部でもスペシクな事業展開も行いたいと考えています。その際にも本部事業と重ならないように協議して進めていきたいと考えています。

北海道社会福祉士会と道央地区支部との役割分担についてはまだまだ協議、調整が必要であると考えています。ほかの支部で行っているから道央でも同様な依頼が来っていますが、道央地区支部は規模、予算的に支部としての小回りの利く対応が難しい現状があり、役員の負担は大きくなっています。そのような実情も訴えながら本部と協議していきたいと考えています。

受験対策についてはその中で生じた問題であると認識しています。受験対策に対する本部の認識についても不明であり、これに限らず本部と支部が協議する場を設けて話し合うべきものであると考えています。

次年度の役員選出についてはかねてより会員から要望のあった選挙での選出を行います。

支部長、ブロック長の選出については北海道社会福祉士会の選出方法にならって、選出された役員の互選で決定することとしています。

各ブロックの最低人員について、役員会で協議する中でも議題となりました。選挙という体制をとる以上、立候補のお願いはできても、選挙によらない形で役員とすることは妥当ではないとの結論に達し、ブロックでも最低人員の設定は行わないこととしました。

しかし、ご指摘の通り、少ない人員でブロック運営を行うことは困難であることも事実ですし、定数を満たしたとしてもブロック運営を定数だけで行うことは困難です。役員ではなく協力員という形でブロック運営に協力いただける方を加えながらブロック運営を補っていくこととして、支部の運営を決める役員の選出については選挙で行い、最低人員の設定については行わないこととしました。

役員の任期については、今後検討いたしたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。これまでは、なり手が無い（と思っていた）中で役員が無い知恵を絞って対応してきました。

ブロック運営についても徐々に広まり、運営に協力いただける方も増えてきています。そういった意味ではこれまで会務に参加したいという方をこちらで補足しきれていなかったとも反省しています。

運営側の新陳代謝は必要なものでありますが、まずは選挙で志のある方に開かれた役員選出を行っていき、運営状況を見ながら役員任期については継続して検討していきたいと考えます。

○質問・意見

本部と地区支部事業の棲み分けを打ち出しているが、
①個別のどの事業を、どのように分担しようとしているのか。
②本部との協議はどのように進めようとしているのか。
①と②の具体的内容を示したうえで、「パブリックコメント」を求めた方が会員も意見をだしやすいのではないか。
上記①、②について、回答をお示し
いただきたい。

御意見ありがとうございます。

本部事業については地域に関係なく、広く、北海道の社会福祉の向上について考え、ターゲットも鮮明に高度な事業を開催する必要がある、役割であると考えます。本部で考えた（委託された）北海道の課題への対策について各支部単位（地域単位）で行うのが支部であると考えます。

しかし、現状で道央地区支部に小回りの利いた対応は困難な状況もあり、地域課題へ取り組むべき支部の素地もまだできておらず、必ずしも本部の要望に対応できる状態にありません。ブロック強化を通じてその素地を作る年になると考えており、前述の支部の役割を果たせるようにしたいと考えています。

その状況からくる他の支部と違った問題を道央は抱えており、これまで北海道社会福祉士会と道央地区支部との現状の報告と役割分担についてしっかりと話し合いを行っておらず、また、長年の懸案である支部分割についても協議が必要であると考えています。

さまざまな政策が地域を起点として考えられる時代となっています。本部は北海道という視点で考えていただき、支部は各地域を視点の中心に置いて考えていくことが必要であると思っています。

その支部の役割を果たしていけるように意見交換を理事会以外で持つて行くことも本部と協議していきたいと考えています。